

# ◆ 困り事・悩み事に対するアイディアや工夫点

## 1. 事前準備・早期介入

- ・その状況になる前に早めから情報収集、イメージしておく
- ・入院時より情報共有を行う
- ・多職種間の密な連携
- ・入院中の退院前カンファが大切、MSWのファシリリにより患者の気持ちと説明
- ・介護保険の申請、タイミングが早めに
- ・入院当初から関わり早めに対応をする

## 2. 多職種連携・カンファレンス

- ・会議を開催し、対象者に関わる職種を多くする
- ・退院前カンファをしっかり行う 段取りを確実に
- ・カンファをする基準を明確に
- ・多職種連携(カンファ、担当者会議を行う)  
※誰がリーダーとなるか
- ・ENT前カンファで共有できたらよい

## 3. 情報共有の工夫

- ・情報の一元化、統一されると良い
- ・病院と在宅側の立場での情報共有
- ・ZOOMの活用
- ・あじさいネットやITCの活用
- ・退院後の様子をMSWさんに伝える様にしている

## 4. 退院支援の工夫

- ・転帰先の検討(自宅・病院・施設)
- ・何に気をつけて入院中対応するか、MSWとして気付いている→事前に教えてくれれば
- ・退院に向けた雰囲気作り
- ・早期よりの退院・支援が必要
- ・地域の介護サービスの状況に合わせた調整

## 5. 役割分担と相互理解

- ・役割分担
- ・連携したことのない職種の仕事内容を理解することで、思わぬ解決の糸口が見つかるかも
- ・コミュニケーションに工夫をする
- ・顔の見える関係づくり、対面で話す
- ・福祉職なので医療連携苦手に思うことがある。包括に医療職がいるので相談する

## 6. 状況把握と見守り

- ・地域で過ごす本人さんの状態を共有する。それを心掛ける
- ・本人や家族へ寄り添う気持ちを理解する
- ・家族の状況を把握する

## 7. 本人・家族への丁寧な説明

- ・繰り返しの説明、試験外泊等、在宅継続の抵抗感を無くす
- ・リハビリでは1日1時間ほぼ毎日関わる。本人が家族へ言えない本当の気持ちや希望を伝えるようにしている
- ・誰に話すか:キーパーソン、繰り返し
- ・試験外泊→スタッフもみて
- ・病院と在宅で連携して説明する

## 8. 制度・社会資源の活用

- ・権利擁護・成年後見支援センター利用
- ・包括へ相談
- ・地域で支える
- ・包括としてアンテナを立てる
- ・行政や警察など、いろいろな機関と連携する。コミュニケーションを取る
- ・地域資源の活用  
(緊急の食料、衣服の提供をしている所等)

## 9. その他

- ・入院後早い段階で活動度の向上に繋げられるように、リハ職も急性期、病院に患者面談し事前に少しでも評価できていたらいいのかも
- ・予後を考えた方針を決定する
- ・在宅の力?!(福祉用具や改修したが、家に帰ると思いの他元気になる場合)